

田んぼと畑のサポート通信

農産plus⁺

Vol.2

2024
April

公益社団法人
北海道農産基金協会

一般社団法人
北海道農産協会



新年度を迎えて

(公社) 北海道農産基金協会 理事長
(一社) 北海道農産協会 会長
樽井 功



昨年6月のそれぞれの総会において、公益社団法人北海道農産基金協会の理事長および一般社団法人北海道農産協会の会長に就任いたしました。

北海道稲作・畑作の更なる発展を目指して事業を進めてまいりますので、皆様方の一層のご支援を何卒お願い申し上げます。

さて、去年は全国的に猛暑の年となり、北海道も同様で、昼夜問わず高温の日が続いたことから、多くの作物で品質低下や収量の減少などが発生し、生産者をはじめ北海道農業にとって厳しい一年となりました。

作物別では、てん菜は褐斑病が大発生し糖分が低下、馬鈴しょはライマン価の低下によりでん粉生産量が減少、米は白未熟粒が発生し歩留まりが低下、大豆・小豆は収穫期の枯凋が進まず品質低下、といったように野菜を含め多くの作物で影響が出ました。

こうした状況を受け、一部作物では販売抑制を余儀なくされ、農産物検査では慎重な対応により検査効率が低下するなど、猛暑の影響は多方面に

及びました。

両協会は、耕種全般を対象作物とし、加えて農産物検査を実施しており、非常に業務範囲の広い組織ではありますが、生産現場の抱える技術的・事業的課題に、スピード感を持って対応を進めなければなりません。

北海道農産協会では、昨年12年ぶりに「北海道の米作り」を改訂し、温暖化、高温対策の項目を追加しました。また、北海道農産基金協会では、急務であるでん粉馬鈴しょ作付推進に向け、基金を活用した「安定供給緊急対策事業」を立ち上げるとともに、小豆の高温耐性品種の選定に向けた調査研究も助成事業として開始いたします。

地球温暖化による異常気象は、残念ながらこれからも継続、あるいはさらに深刻化していくことも懸念されます。両協会として皆様のご支援をいただきながら、事業をしっかりと進めてまいりたいと考えます。

今年度もどうぞ宜しくお願いいたします。

令和6年度 北海道農産基金協会の主な事業

(1) 豆類関係事業

- 豆類価格安定対策事業
 - ・赤系金時の保管事業及び価格差補てん事業、安定供給緊急対策事業
 - ・金時、中長うずら及び大手亡に係る基準価格等の設定
- 豆類生産流通安定推進事業
 - ・生産、流通、実需、行政等の関係者による豆類需給安定会議の開催
- 豆類消費啓発助成等事業、豆類調査研究助成事業
 - ・公募により選定された先への助成・支援
- 豆類流通円滑化緊急対策事業

(2) 馬鈴しょ関係事業

- 研究助成事業
 - ・馬鈴しょの安定生産を目的とした品種改良、病害虫対策及び栽培技術の開発に関する事業を公募、選定先への助成

- 普及啓発事業
 - ・馬鈴しょ及びでん粉講習会の開催
- 需給調整事業
 - ・でん粉の需給動向の調査と作付拡大に向けた馬鈴しょ安定供給緊急対策事業

(3) 青果物関係事業

1) 野菜関係

- 野菜価格安定対策事業
- 青果物生産出荷安定対策事業
- 大規模契約栽培産地育成強化支援事業
 - ・加工・業務用野菜生産基盤強化に取り組む団体に対する事務支援

2) 果実関係事業

- 果樹経営支援対策事業
 - ・優良品目・品種への転換等に要する経費の助成
- 全国果樹技術・経営コンクール

令和6年度 北海道農産協会の主な事業

(1) 良質米麦生産技術向上対策事業

- 米麦の基本栽培技術・新品種栽培技術の普及に係る啓発の資材作成・配付
- 病害虫対策技術情報の提供・啓発
- 異常気象における米麦の安定確収技術対策の提供
- 良質米麦安定生産技術講習会および総合改善研修会の開催
- 米麦共励会等を通じた優良事例収集と普及
- 水稻種子の生産技術啓発
- 技術指導情報誌の「農産技術だより」の発行・配付
- 北海道産小麦の生産実証圃の設置

(2) てん菜事業

- 原料てん菜の受け渡し及び糖分測定立会事業
 - ・原料てん菜立会人による立会業務の推進、糖分測定センターの点検等の実施
- 試験研究事業（道総研農業試験場・工業試験場等との連携のもとで実施）

- ・てん菜輸入品種検定試験、てん菜冠部の切断位置による根中糖分の調査
- ・テンサイ褐斑病抵抗性“かなり強”を超える系統に対する防除技術の開発
- ・近赤外分光法によるてん菜糖分計測装置の開発、てん菜受入査定のA I 画像評価システムの開発
- 普及啓発事業
 - ・高品質てん菜づくり講習会の開催、てん菜糖業年鑑、「てん菜だより」の作成・配布
 - ・各関係機関・団体と連携したてん菜糖（砂糖）の需要拡大対策の推進

(3) 農産物検査事業

- 農産物検査員の育成並びに鑑定技術の向上のための研修会等の開催、現地指導
- 関係法令・業務規程の遵守に向けた情報発信・内部監査の実施
- 地区検査指導体制の構築

事業部 豆類事業

調査研究助成事業

令和6年度から十勝農業試験場において、近年の猛暑に向け小豆品種の高温抵抗性に対する評価法を検討し、今後の品種開発を促進させるための試験を開始します。

消費啓発事業

公募により本事業を行っておりますが、令和5年度に引き続き、WOLT 加盟店が道産豆類使用のメニューを開発し利用者にクーポンを提供する企画や、その他取り組みでは、好評を得ている道内和菓子店のスタンプラリーを継続するなど豆類の消費拡大を進めます。



事業部 馬鈴しょ事業

馬鈴しょ安定供給緊急対策事業

令和5年産馬鈴しょでん粉原料用馬鈴しょは、猛暑の影響を受けた地域も多くライマン価が全道的に低い傾向となりました。

でん粉の需要はコロナ禍も落ち着きを見せ人の動きも回復するにつれ、でん粉需要も戻ってきていますが、生産量減少による供給不足から出荷制限をしている状況にあります。令和6年産については、北海道馬鈴しょでん粉を安定供給するため作付け面積を増加する必要な状況となっていることから、出荷団体の要請に応え馬鈴しょ安定供給緊急対策事業を実施致します。



事業部 青果物事業

ブロッコリーが「特定野菜」から「指定野菜」に昇格、ジャガイモ以来、約半世紀ぶり

農林水産省はブロッコリーを「指定野菜」に追加する方針を決めました。生産量や消費量が増えており、安定供給の重要性が増していると判断し、2026年度から適用します。

指定野菜は、指定野菜価格安定対策事業の対象になり、価格下落時の補填が厚くなります。



米麦部

「北海道の米づくり」完成 ～農産協会発行

2023年秋「北海道の米づくり」が北海道、道総研、北農研の米のオーソリティ総勢36名の執筆により完成し関係先に配布いたしました。これから約10年にわたり米関係者のバイブルとして活用されます。

小麦品質等調査実習 ～ホクレンくるるの杜にて

2023年12月、小麦に関わる普及員、道総研、関係団体職員等を対象に実習を開催しました。長沼のうどんの名店「ほくほく庵」岡部店主の指導のもと実際に手打ちうどんを製作、試食し、品種による違いと課題も実感しました。また、日清製粉 萩本様からうどんに求められる小麦品質の講義、ホクレン担当者からの情勢報告など充実した内容の研修でした。



稲作麦作総合改善研修会を開催

2024年3月8日、札幌市の共済ビル大ホールにおいて稲作麦作総合改善研修会を開催いたしました。生産者、



各地区JA担当者、各地区農業改良普及センター担当者、関係機関などから昨年を上回る150名が出席するなか「北海道米麦共励会表彰式」、「共励会優良事例の報告」、また日本気象協会の半田気象予報士から「昨夏の北海道の気象経過および暖候期予報の解説・地球温暖化と北海道について」特別公演があり、出席者は猛暑に悩まされた昨年の経過と今後について熱心に耳を傾けていました。

てん菜部

立会人の委嘱と糖分測定装置の点検

てん菜部では、原料てん菜の公正かつ円滑な取引を推進するため、生産者組織と糖業者が協議して推薦し、当協会が委嘱する原料てん菜立会人が公正中立な立場で、工場等の受入時の計量や正味率査定、サンプル採取、糖分測定等の適正を確認しています。

また、工場等の糖分測定センターのサンプル測定装置について、立会人による始業前等の点検に加え、操業前及び操業期間中に協会職員が立入点検を実施し、装置の適正な稼働を確認しています。



砂糖の原料てん菜のキャラクター「シュガビー」と

新しいお砂糖のキャラクター「しゅがるん」です



検査部

検査員の育成に取り組んでおります

検査部の検査指導体制は、本部に技監2名、各地区に統括検査員13名を配置し、従たる事務所（JA等）89か所、検査場所204か所、登録検査員869名が検査業務に携わっております。

当協会は、北海道内の農産物検査を万全に実施するために、定期的に農産物検査員を育成しております。令和5年度は、109名が数日間の基礎課程を修了し、各地で品目ごとの現場実習に取り組み、令和6年度から検査員として活躍する予定となっております。

また、鑑定技術の向上、知識習熟を図るために、技能確認会、鑑定研修会、通信分析などを開催しております。



役員

北海道農産基金協会・北海道農産協会共通役員

理事長・会長	樽井 功	(北海道農業協同組合中央会 代表理事会長)
副理事長・副会長	橋本 弘幸	(ホクレン農業協同組合連合会 代表理事副会長)
専務理事	五藤 一彦	(学識経験者)
理事・審議委員	八田 米造	(ようてい農業協同組合 代表理事組合長)
理事・審議委員	高井 一英	(とうや湖農業協同組合 代表理事組合長)
理事・審議委員	山本 博行	(そらち南農業協同組合 代表理事組合長)
理事・審議委員	畑山 義裕	(東旭川農業協同組合 代表理事組合長)
理事・審議委員	大坪 広則	(きたみらい農業協同組合 代表理事組合長)
理事・審議委員	前川 厚司	(幕別町農業協同組合 代表理事組合長)
理事・審議委員	飯島 浩	(中標津町農業協同組合 代表理事組合長)
監事	今村 隆徳	(道央農業協同組合 代表理事組合長)

北海道農産基金協会単独役員

理事	花岡 弘毅	(北海道農政部生産振興局 農産振興課長)
理事	松尾 元	(公益財団法人日本豆類協会 常務理事)
理事	梶原 雅仁	(豆の国十勝協同組合 理事長)
理事	太田 孝夫	(北のでんぷんを考える会 会長)

北海道農産協会単独役員

副会長	柏木 孝文	(ホクレン農業協同組合連合会 代表理事副会長)
審議委員	横道 重人	(新函館農業協同組合 代表理事組合長)
審議委員	花井 秀昭	(るもい農業協同組合 代表理事専務)
審議委員	武田 俊昭	(北海道食糧事業協同組合 理事長)
審議委員	高井 博美	(北海道農産物集荷協同組合 代表理事)
審議委員	五十嵐 裕	(北海道製粉連絡協議会 事務局長)
審議委員	木山 邦樹	(日本甜菜製糖株式会社 取締役常務執行役員札幌支社長)
審議委員	山本 康人	(北海道糖業株式会社 常務執行役員)
監事	末永 仁宏	(公認会計士)

耕種5団体の組織統合と事業概要

令和2年4月、組織運営の効率化・合理化と、事業推進の機能強化を目的に、それまでの5団体を2組織に再編、さらに一体的な運営を目指しております。

統合の方向性としては、「生産者のための組織再編と機能強化」を基本とし、既存の基幹事業を継承しつつも、時代に即した機能的な事業展開を進めてまいります。

公益社団法人 北海道農産基金協会

【統合された旧団体】

北海道豆類価格安定基金協会
北海道馬鈴しょ生産安定基金協会
北海道青果物価格安定基金協会

【会 員】108 会員

【役 員】理事・監事 15 名

【職 員】9 名

一般社団法人 北海道農産協会

【統合された旧団体】

北海道米麦改良協会
北海道てん菜協会

【会 員】36 会員

【役 員】

理事・監事・審議委員 20 名

【職 員】34 名

(令和6年4月1日現在)

Interview

My way of Work and Life

昨年、両協会の副会長（副理事長）にご就任いただきましたホクレン副会長のお二方に、
①業務課題と今後の抱負 ②個人的な楽しみ について、短いインタビューにお応えいただきました。ご覧ください。

柏木 孝文（北海道農産協会副会長）

- ① 昨年の稲作は猛暑の影響を受け、シラタの発生等歩留まりが大きく低下し、作況指数 104 の感度はない。今年も熱い夏が予想されており、高温対策は急務であり、ホクレン・農産協会でも優良事例の水平展開を早めに進めている。また高温傾向が続いている昨今の気象状況を受けて、北海道独自の品種改良も試験機関に要望している。需給が締まっているなか北海道米の価値を守るべく「八十九」など当面の販売戦略を進めているが、将来に向け、主食用、業務用、酒米、輸出など、北海道米それぞれの分野で需要の維持・確保を強力に推進したい。今後、GI^{*}取得、米粉の販売など具体策を着実に実践し事業拡大も目指したい。

※ Geographical Indication（地理的表示）

- ② おかげ様で、電車を利用し事務所から 1 時間半で自宅に帰れるので、週末自宅に戻り農作業をするのが楽しみである。いまだにトラクターに乗る 92 歳の父と、隣地に新居を計画している後継者はいるが、週末は自分が主役(?)だと自認している。



橋本 弘幸（北海道農産基金協会副理事長、北海道農産協会副会長）

- ① てん菜は負の要素が重なり予想以上に面積が減少している。砂糖在庫の解消や品代の上昇など明るい兆しが少しずつ出てきており、輪作体系の維持、工場の安定稼働に向け、生産者に粘り強く作付けをお願いしたい。でん粉馬鈴しょについては、作付促進に向け基金協会でも「馬鈴しょ安定対策緊急対策事業」を実施する。国産需要枠を長期的に維持するため急務であるでん粉の増産にご協力をお願いしたい。また既存品目も大事であるが、園芸では新規品目として「さつまいも」の振興を図っており、少しずつ実績が積みあがるなか、今後さらに期待できる。ホクレンの副会長として事業拡大を進めるなか、風通しが良く職員と遠慮なくコミュニケーションが取れる環境を進めたいと考えており、ジェンダー平等や若手が活躍しやすい組織ということも目指したい。

- ② 仕事を進めるなかでは失敗することもあるので、反省をしっかりとったなかで半分は忘れることも大事だと思っている。プライベートでは、テレビのスポーツ観戦そしてカラオケが好きである。まずは H₂O、そしてアリス、チューリップがレパートリーであるが、選曲が被らないよう最近はいみよんに挑戦している。

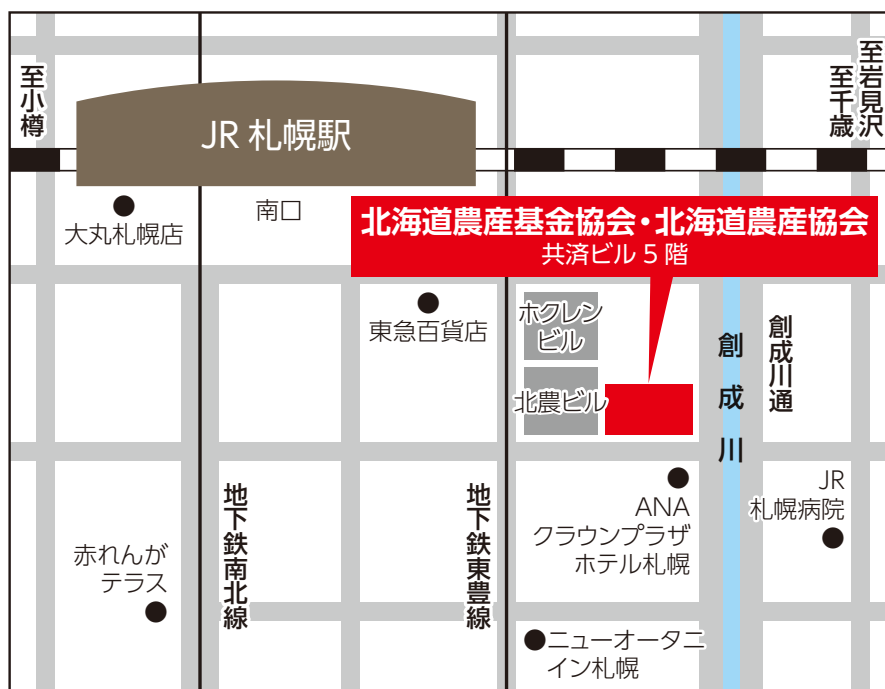


「地球温暖化」が進み「地球沸騰化」と言われ始めた。世界の多くの地域で、そして日本も昨年は異常な高温が続き様々な影響を受けたが、北海道農業への影響もご承知の通り小さいものではなかった。

一方同年、北海道立総合研究機構 農業研究本部が「ななつぼし・ふっくりんこ・ゆめぴりか」の育種により、北海道新聞・文化賞を受賞する喜ばしいニュースもあった。食味評価で北海道米にパラダイムシフトをもたらした米の育種が北海道の稲作にもたらした功績は極めて大きい。

「地球温暖化（沸騰化）」対応への課題は多く、それぞれ簡単には進まない。ただし、北海道の試験研究機関、行政、関係団体がそれぞれ努力し連携すれば、自然に対する勝率を上げることができる。

「産地の痛み」をしっかり受け止め、「食料基地 北海道」を未来に繋げたい。



公益社団法人

北海道農産基金協会

Hokkaido Agriculture Fund Association

〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル5階
TEL 011-206-1551 FAX 011-232-1016

<https://www.nousan-kikin.or.jp>

北海道農産基金協会
ホームページ



一般社団法人

北海道農産協会

Hokkaido Agricultural Association

〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル5階
TEL 011-232-6495 FAX 011-232-3673

<https://hokkaido-nosan.or.jp>

北海道農産協会
ホームページ

